事例No.	1967
公表年度	R4
団体の属性	一般市
団体名	大分県杵築市

事例区分	第三セクター

タグ	・観光 ・会社法法人 ・ICT

事例種類	DXに関する取組

事例内容・タイトル

ドローンを活用した物流サービスと観光コンテンツ（「物流×観光」）開発への取組

出典

第三セクター等に関する参考事例集

大分県杵築市	（株）きっとすき

ドローンを活用した物流サービスと観光コンテンツ（「物流×観光」）開発への取組

1.　法人概要（事業内容・経営状況等）

＜事業内容＞

○ 当社（https://kit-suki.co.jp/）は、杵築ブランドを一つの柱とした販売戦略の強化や商品開発・販売などを目的として、設立当初は「杵築ブランド事業部」を設け、杵築市を筆頭株主とし、商工会、農協、漁協、県内の銀行が出資した地域商社として、平成30年4月に設立した。

○ 平成31年4月には「ふるさと納税事業部」を立ち上げ、杵築市のふるさと納税事業の一翼を担い、同年5月には「ドローン事業部」を立ち上げ、（一社）杵築市観光協会とドローンを使った観光誘客策として「きつき空飛ぶ観光協会（https://www.kit-suki.com/drone/）」や「教育体験プログラム」などに取り組んでいる。

○ ドローン事業部では、国土交通省認定機関のインストラクターによるドローン操縦体験・操縦者の育成、空撮を活かした映像制作などを行っている。

＜経営・出資状況等＞　（単位：千円）

経常収益	228,308	杵築市出資額	3,000
経常損益	10,292	杵築市出資割合(%)	66.7
資産	70,314	その他地方団体出資額	1,500
純資産	29,305	その他地方団体出資割合(%)	33.3
自己資本比率(%)	41.7	役職員数(人)	1

※経営・出資状況は、令和3年度決算数値

＜団体データ＞

人口（人）	27,638
標準財政規模（百万円）	11,033
財政力指数	0.34

※人口は、住民基本台帳に基づく人口（令和4年1月1日時点）
※標準財政規模及び財政力指数は、令和3年度決算の数値





▲　観光VRドローン活用事業

2. 本事例の概要

○ 大分県は平成29年6月に大分県ドローン協議会を発足し、ドローン産業の集積を目指す柱として、以下4項目を掲げ、ドローンによる地域課題解決に取り組んできた。

① ビジネスチャンスの研究支援
② ドローン産業の普及・啓発、人材育成支援
③ 技術開発等のサポート
④ 情報提供・企業間交流

○ 当社は、令和元年にドローン事業部を立ち上げ、「ドローン×観光」、「ドローン×教育」、「ドローン×福祉」及び「ドローン×物流」の実証事業等を行い、収益性・公益性を追求し地域実装を進めてきた。

○ 高齢化社会への対策として「物流」と「観光」に着目し、杵築市と当社が連携することで地域課題解消にむけた社会実装に対して地域密着・現場目線での取組を目指すことができた。

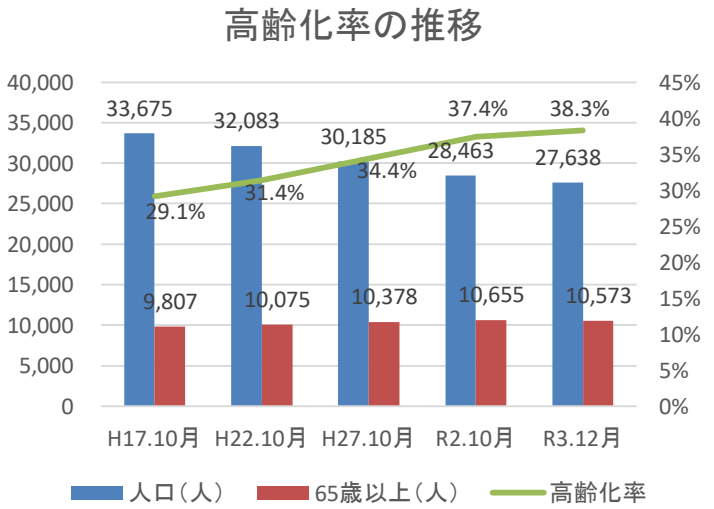


3. 取組の背景、理由、着手のきっかけ

○ 杵築市の高齢化率は、平成17年10月の市町村合併時は29.1%であったが、令和3年12月末時点は38.3%と高齢化が進んでおり、「買物弱者支援」対策の強化が求められている（右グラフ参照）。

○ 新型コロナウイルスの感染拡大の影響により、観光客数が令和元年度の976,405人から令和3年度には741,804人に減少し、市内の観光関連事業者に大きな影響を与えたことから、「withコロナ時代にあった観光資源の開発」が求められている。

○ 杵築市では、以前からドローンを活用した取組として、空撮映像をふんだんに盛り込んだPR動画作成を行っていたことから、ドローンに着目し、これらの課題に対し、解決の糸口を探るために実証実験を行うこととした。



4. 取組の具体的内容

(1) 取組方針とその決定過程

○ 当社は、ドローンを活用した物流サービスの提供として、杵築市内のスーパーから宿泊施設（距離約6.5km）への市特産品の「ハモ鍋セット」の配送や、杵築市内の大分農業文化公園「るるパーク」のキャンプ場（距離約7km）への「おおいた和牛BBQセット」の配送の実証実験を行い、移動手段を持たない買い物弱者支援や閑散期の新たなキャンプ場集客の社会実装を目指す。なお、いずれの実証実験（事業費5,000千円）も補助金を活用の上、取り組むこととした。

○ ドローンによる配送実験にあわせて、「ドローンサッカー体験会」や「ドローンデモフライト」を行い、ドローン物流と観光コンテンツを絡めてイベント化し、体験型アトラクションとして提供することを目指す。

○ 当社は、（一社）杵築市観光協会が行う「きつき空飛ぶ観光協会」の開発とサポートに携わり、杵築市をドローンで楽しんでもらうドローンパスポート、メモリアルドローン、ドローンVRゴーグル体験の取組を行い、観光アイテムとしてのドローンの魅力で誘客を目指す。

(2) 取組の具体的な進め方

○ ドローン物流では、単に物資を配送するだけではなく、配送している空からの映像を組み合わせて提供することにより、見せる物流・メモリアル的な物流を行い、ドローンが配送することに付加価値を付ける（ウーバーイーツ的＋映えるドローン配送の実現）。

○ 大分農業文化公園「るるパーク」において、夏休み親子ドローン操縦体験・プログラミング体験を実施し、パーク内の新たな観光コンテンツとして提供を続ける。

○ 杵築市が整備した新たな観光拠点「野上家」において、観光客向けに「リアルな空から観光」を楽しんでもらう取組として、ドローンが食材を配送する映像や配送された食材をその場で食べて楽しむイベントを開催する。

○ これらの実験やイベントは、パートナーシップ連携協定を結んでいる県内企業2社のスタッフの派遣を受けて運営している。



5. 取組の効果

○ 令和4年10月に、ドローンを活用したプログラミング教育に関心のある県外(福岡県)の修学旅行生が、ドローン体験(操縦・プログラミング)を組み入れた行程で初めて杵築市を訪れるなど、観光コンテンツとしての取組が評価を得て、体験型修学旅行の誘致につながった。

○ ドローンによるBBQセットの配送実証と同時に行った大分農業文化公園「るるパーク」でのイベントによる来園者数は2日間で約3,000人と、前年同日の2日間と比較し、約20倍の集客効果をもたらすなど、閑散期の集客対策として効果があった。

○ これまでの杵築市の取組が、デジタル田園都市国家構想の実現に向けた地域の個別課題を実際に解決し、住民の暮らしの利便性と豊かさの向上や、地域の産業振興につながっている取組として評価され、「夏のDigi田甲子園」に大分県代表(アイデア部門)として選出された。
タイトル:「ドローンを活用した物流と新たな観光資源の開発」(https://www.cas.go.jp/jp/seisaku/digitaldenen/archives/koushien/chiiki/oita.html)



6. 今後の課題(今後の方針、残された課題等)

○ 物流サービスの提供だけではコスト面で課題が残るため、VRゴーグルや操縦体験といった観光コンテンツと絡めた形(物流×観光)でのサービスが提供できないか検討を要する。

○ 配送に付加価値を付け、見せる物流・楽しめる物流・短距離高頻度物流を実現することで、採算性を確保し、儲かるドローン物流を目指す。

○ これらの取組を実現することにより、新たな人の流れを作り、物流と観光のそれぞれで抱える地域課題の解消を目指す。

○ ドローン物流は、平時には観光ドローン、災害時には救援物資等の配送ドローンとしての役割を担えることから、今後運航事業者を開拓して市内全域をカバーできる体制を整える。



☆	危機管理	消防・警察・捜索・救助・防災・減災
☆	農林業	農薬散布・鳥獣害対策・植生分布調査
☆	観 光	空撮・体験会・競技会
☆	建 設	測量・高所点検・太陽光パネル点検
☆	物 流	物資輸送(離島・中山間地域)
☆	福 祉	自立支援・VR体験
☆	教 育	プログラミング
☆	スポーツ	競技力向上・観戦
☆	エンタメ	ドローンレース・ドローンサッカー

▶ ドローンを活用したビジネス(分野別)

<参考>地方公共団体の問合せ先 担当課:杵築市企画財政課 連絡先(電話番号):0978-62-1804